

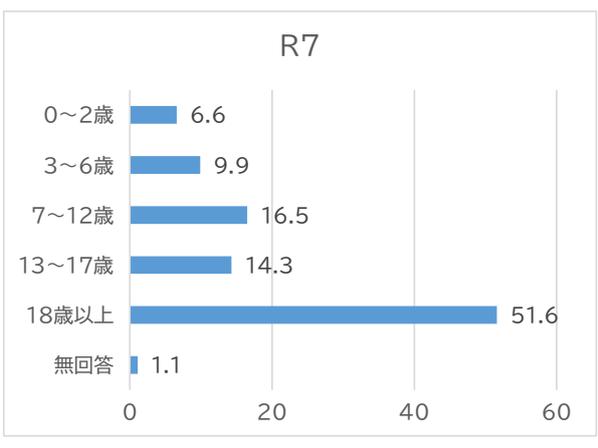
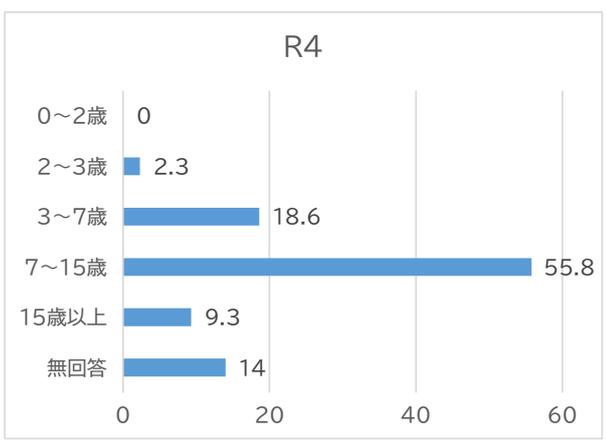
医療的ケア児者等に関するアンケート調査結果

令和4年度	調査対象 85名	回答数 43名	回収率 50.6%
令和7年度	調査対象 147名	回答数 91名	回収率 61.9%

1. 医療的ケアを必要とするご本人について

①ご本人の年齢

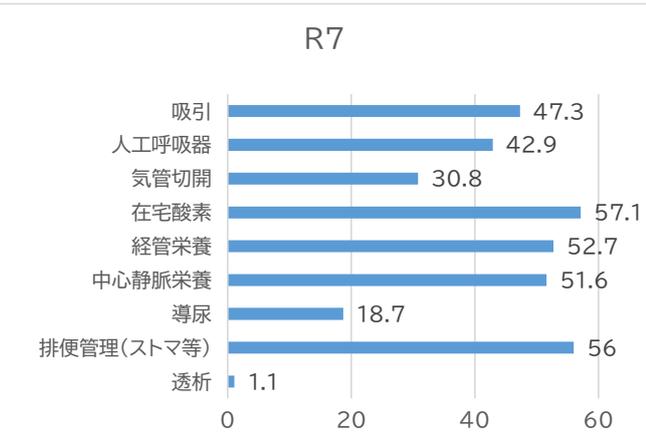
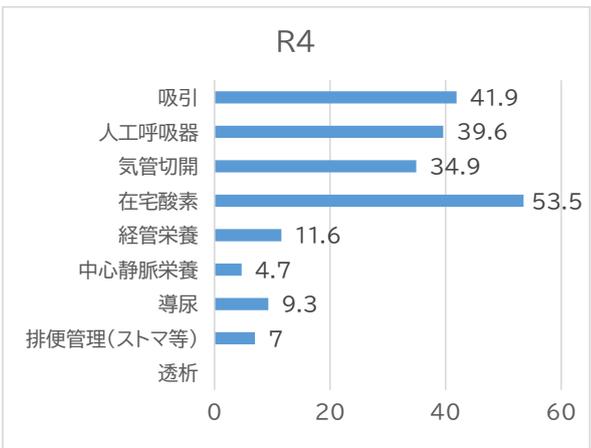
R4(令和4年8月1日時点) (n=43) R7(令和7年7月15日時点) (n=91)



令和4年度調査では「7～15歳」(55.8%)が最も高く、次いで「3～7歳」(18.6%)となっております。令和7年度調査では新たに18歳以上の方も対象としているため、18歳以上の方が約半数を占めており、18歳未満の医療的ケア児の人数は令和4年度調査時とほとんど同数となっております。
 また、令和7年度調査では医療的ケア児の中で「7～12歳」(16.5%)が最も高く、次いで「13～17歳」(14.3%)となっているほか、「0～2歳」(6.6%)、「3～6歳」(9.9%)の割合が令和4年度調査より増加しております。

②必要とされる医療的ケア(複数回答)

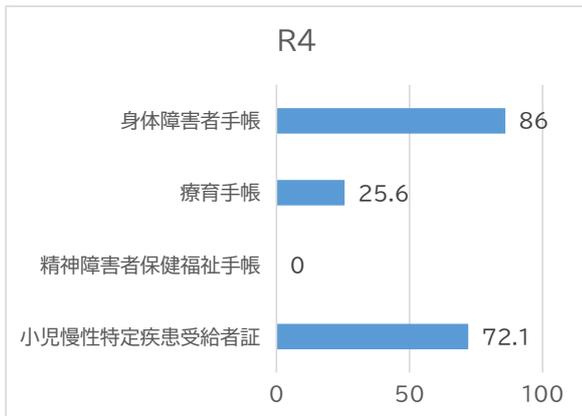
R4 (n=43) R7 (n=91)



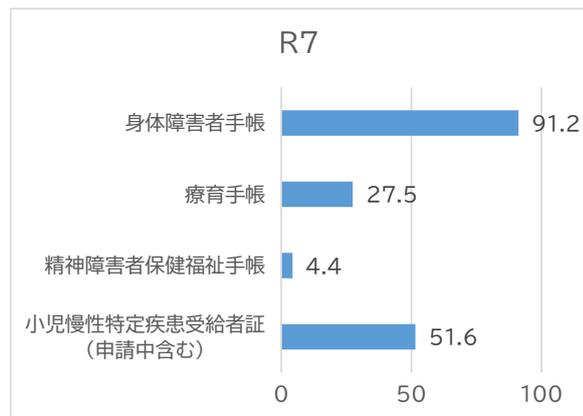
令和4年度・令和7年度調査ともに「在宅酸素」が最も高い結果となりました(R4:53.5%、R7:57.1%)。次いで令和4年度調査では「吸引」(41.9%)、「人工呼吸器」(39.6%)となっているのに対し、令和7年度調査では「排便管理(ストマ等)」(56.0%)、「経管栄養」(52.7%)となっております。
 令和4年度と令和7年度を比較すると、「経管栄養」(11.6%⇒52.7%)、「中心静脈栄養」(4.7%⇒51.6%)、「排便管理(ストマ等)」(7.0%⇒56.0%)の3項目で大幅に増えております。

③障害者手帳所持について(複数回答)

R4 (n=43)



R7 (n=91)

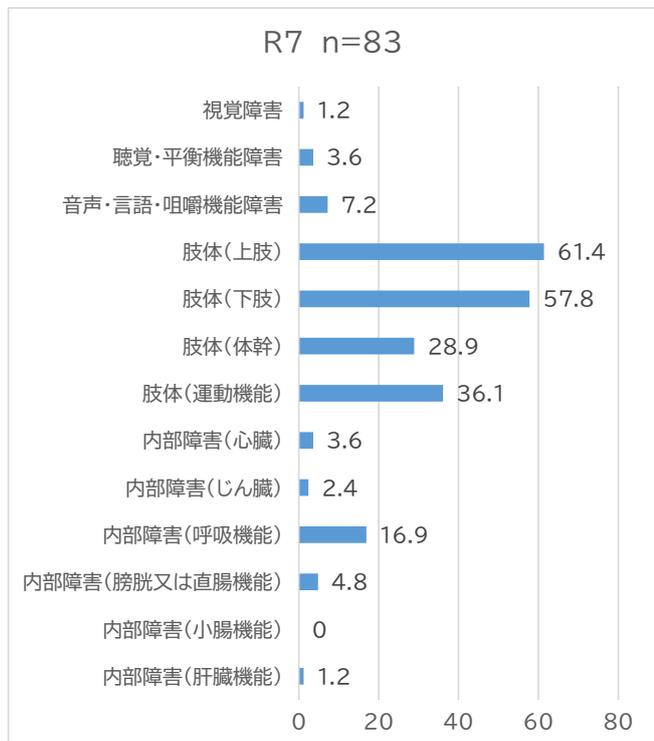


身体障害者手帳の種別

R4 n=37

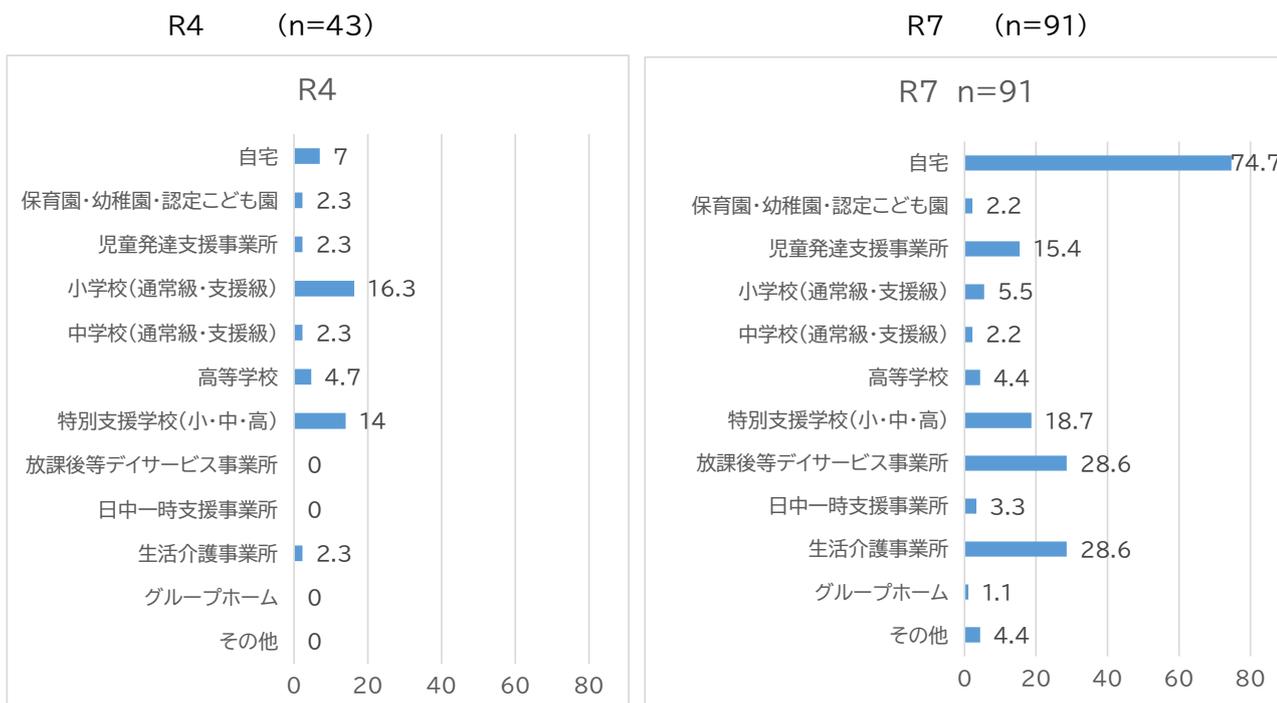


R7 n=83



障害者手帳については、令和4年度・令和7年度調査ともに「身体手帳」(R4:86.0%、R7:91.2%)が最も高く、次いで「療育手帳」(R4:25.6%、R7:27.5%)となっております。
 「小児慢性特定疾患受給者証」は令和4年度から令和7年度(72.1%⇒51.6%)で割合が少なくなっておりますが、これは調査対象者を18歳以上の方にも拡大したことが考えられます。
 身体障害者手帳の種別については令和4年度と令和7年度で大きな違いは見られず、「肢体(上肢)」(R4:73.0%、R7:61.4%)が最も高く、次いで「肢体(下肢)」(R4:67.6%、R7:57.8%)となっております。

④日中の活動場所



日中の活動調査については、令和7年度調査では「自宅」(74.7%)が最も高く、次いで「放課後等デイサービス事業所」「生活介護事業所」(いずれも28.6%)となっております。
 令和4年度調査では回答数が少ないこともありますが、令和7年度調査では「自宅」(7.0%⇒74.7%)、「放課後等デイサービス事業所」(0.0%⇒28.6%)、「生活介護事業所」(2.3%⇒28.6%)の3項目で大幅に増えております。反対に、「小学校(通常級・支援級)」(16.3%⇒5.5%)は減少しております。

⑤家族による医療的ケアが困難な場合、代わりにケアを依頼できる相手

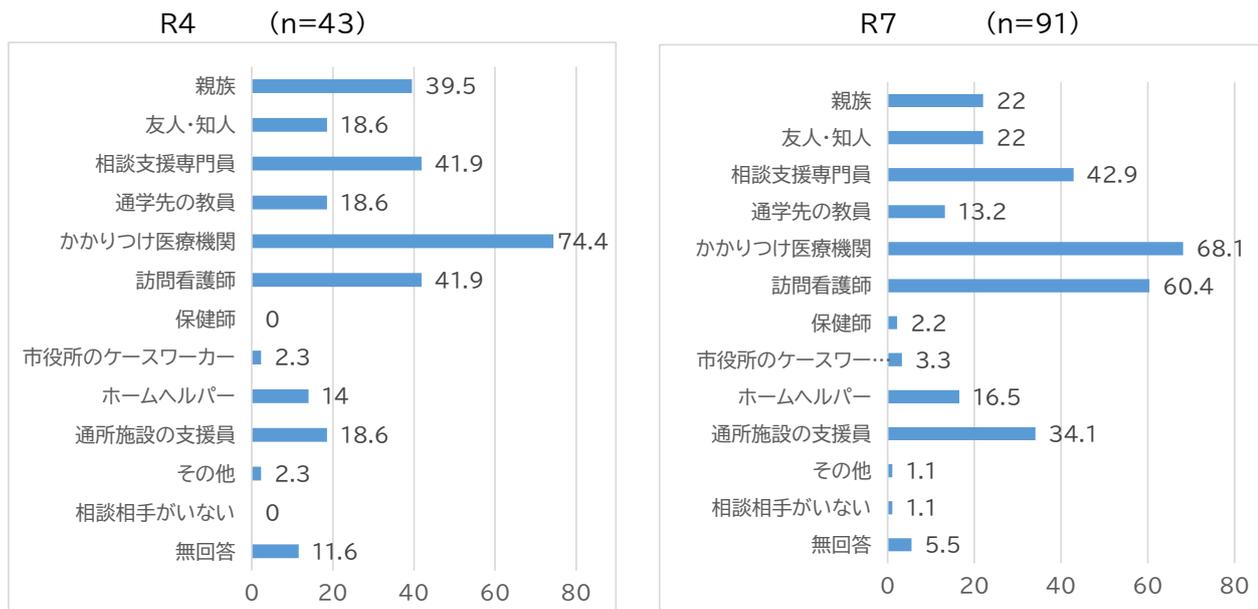


<ケアを依頼する相手> (複数回答)



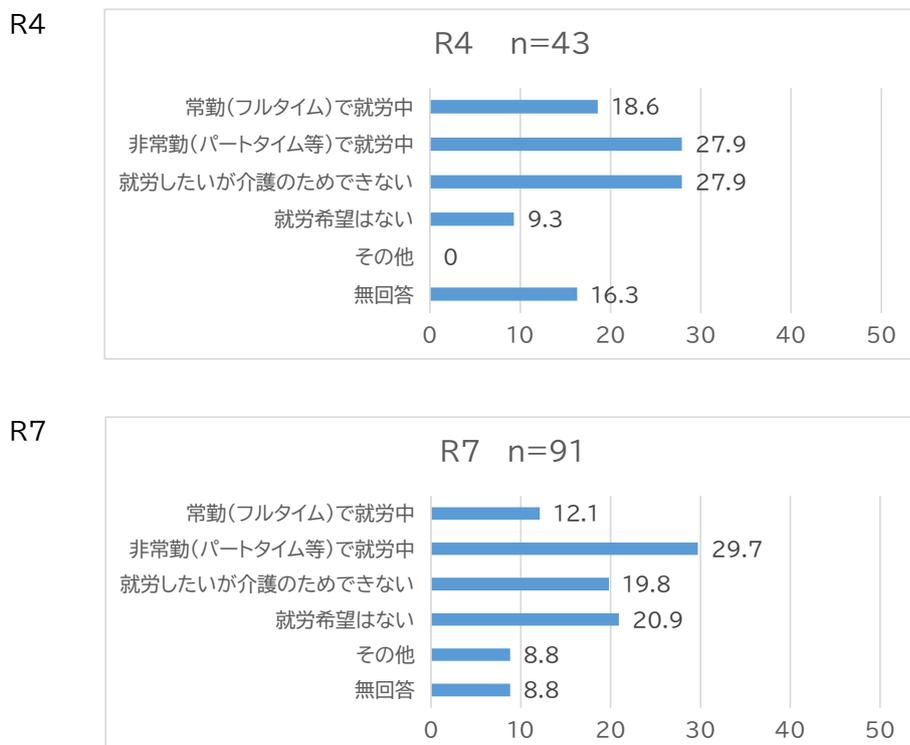
家族の代わりにケアを依頼できる相手がいると回答した方は、令和4年度調査より増加(41.9%⇒53.8%)しております。
 令和7年度調査でケアを依頼できる相手は「訪問看護」(81.8%)が最も高く、次いで「短期入所」(47.7%)、「ホームヘルパー」(36.4%)となっておりますが、令和4年度と比較すると、「ホームヘルパー」(64.3%⇒36.4%)をはじめ、いずれの割合も令和7年度調査の割合が低くなっております。

⑥医療的ケアについて相談できる家族以外の相手(複数回答)



医療的ケアについて相談できる家族以外の相手については、令和4年度・令和7年度調査ともに「かかりつけ医療機関」(R4:74.4%、R7:68.1%)が最も高く、次いで「訪問看護師」(R4:41.9%、R7:60.4%)、「相談支援専門員」(R4:41.9%、R7:42.9%)となっており、細かい増減がありますが、全体の傾向は同様となっております。

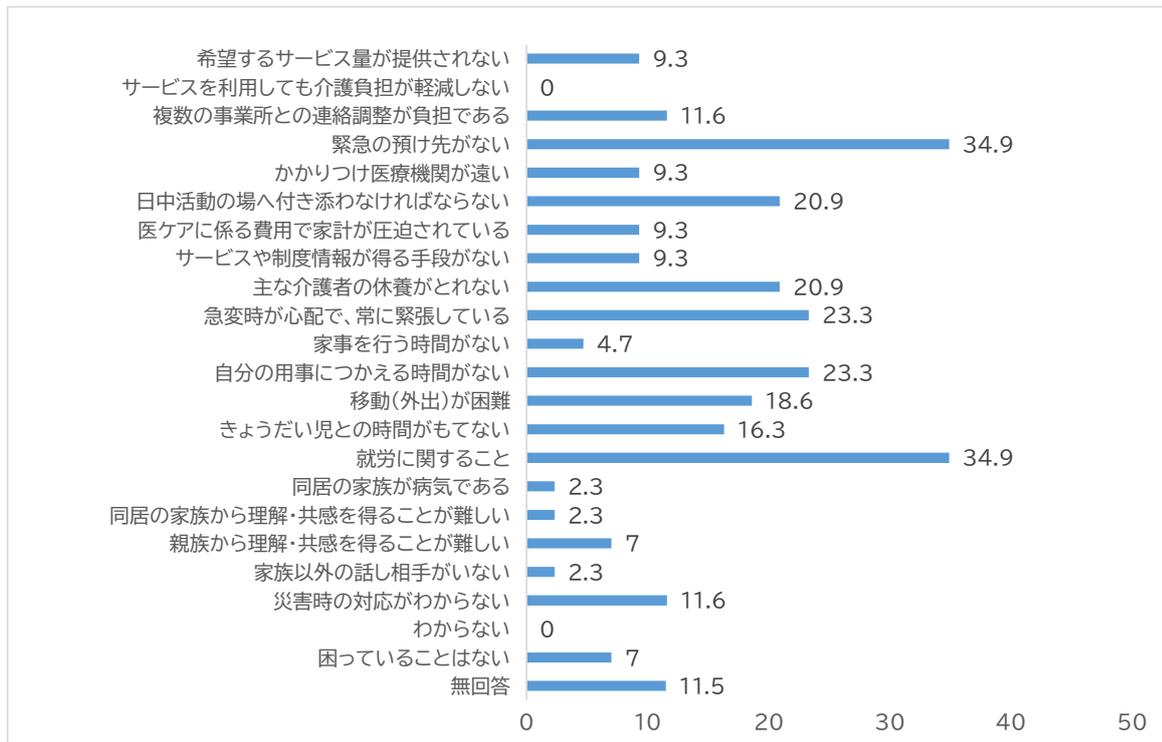
⑦「主たる介護者」の現在の就労状況



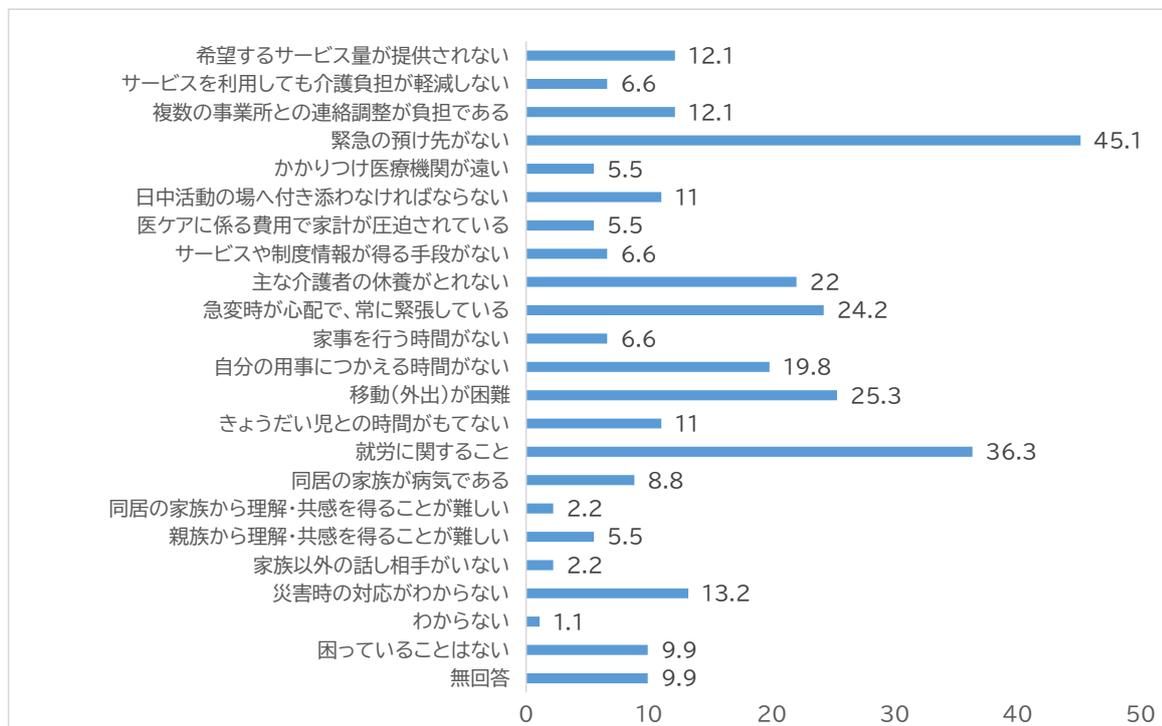
「主たる介護者の現在の就労状況」は令和4年度調査では「非常勤(パートタイム等)で就労中」と「就労したいが介護のためできない」(27.9%)が同数で最も高く、次いで「常勤(フルタイム)で就労中」(18.6%)となっております。令和7年度調査では「非常勤(パートタイム等)で就労中」(29.7%)が最も高く、次いで「就労希望はない」(20.9%)、「就労したいが介護のためできない」(19.8%)となっております。

⑧医療的ケアが必要な方と生活するうえで困っていること(複数回答)

R4 (n=43)



R7 (n=91)

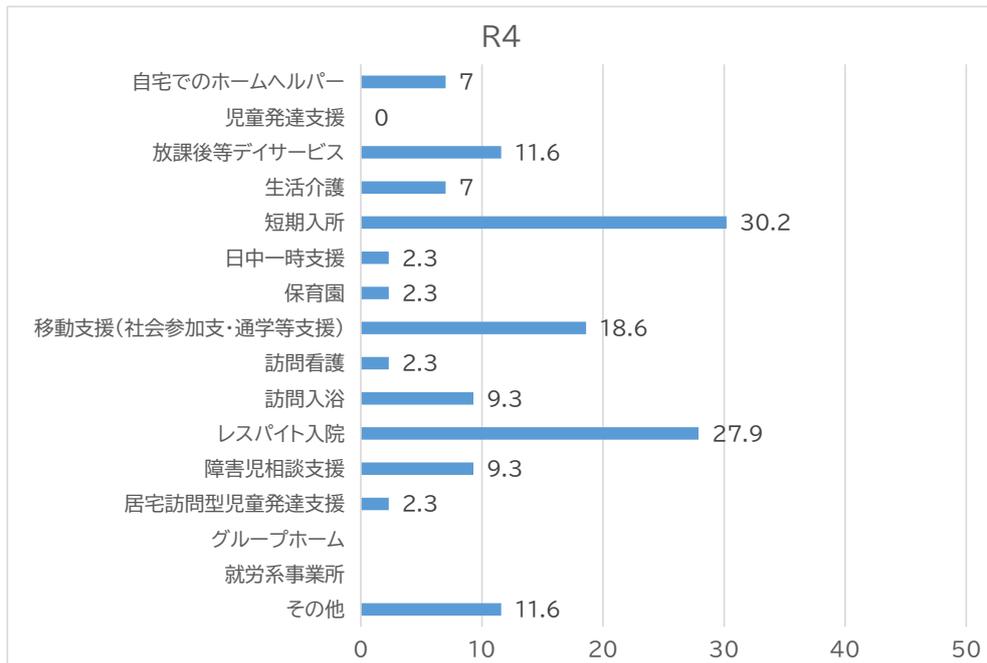


令和4年度・令和7年度調査ともに「緊急の預け先がない」(R4:34.9%、R7:45.1%)が最も高く、次いで「就労に関すること」(R4:34.9%、R7:36.3%)、となっております。

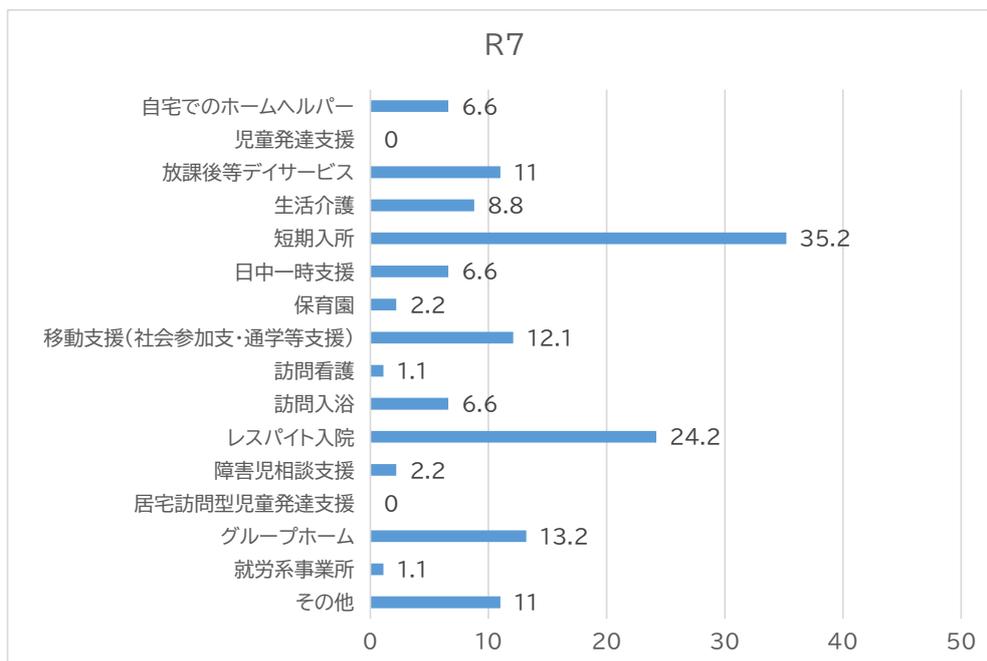
そのほか、「移動(外出)が困難」(R7:25.3%)、「急変時が心配で、常に緊張している」(R7:24.2%)、「主な介護者の休養がとれない」(R7:22.0%)、「自分の用事につかえる時間がない」(R7:19.8%)が回答の多い項目となっております。

⑨不足していると感じるサービス

R4 (n=43)



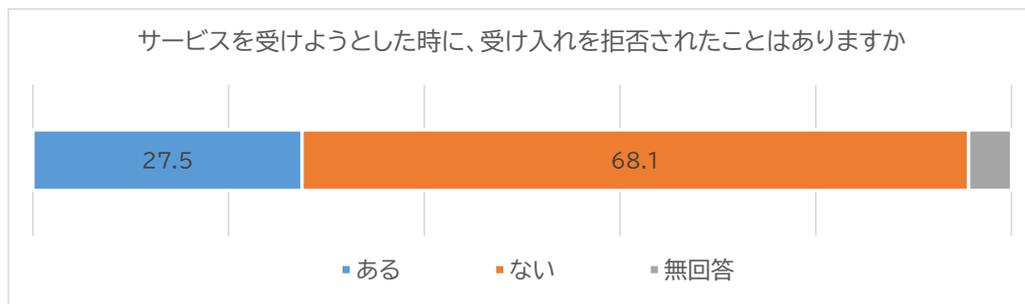
R7 (n=91)



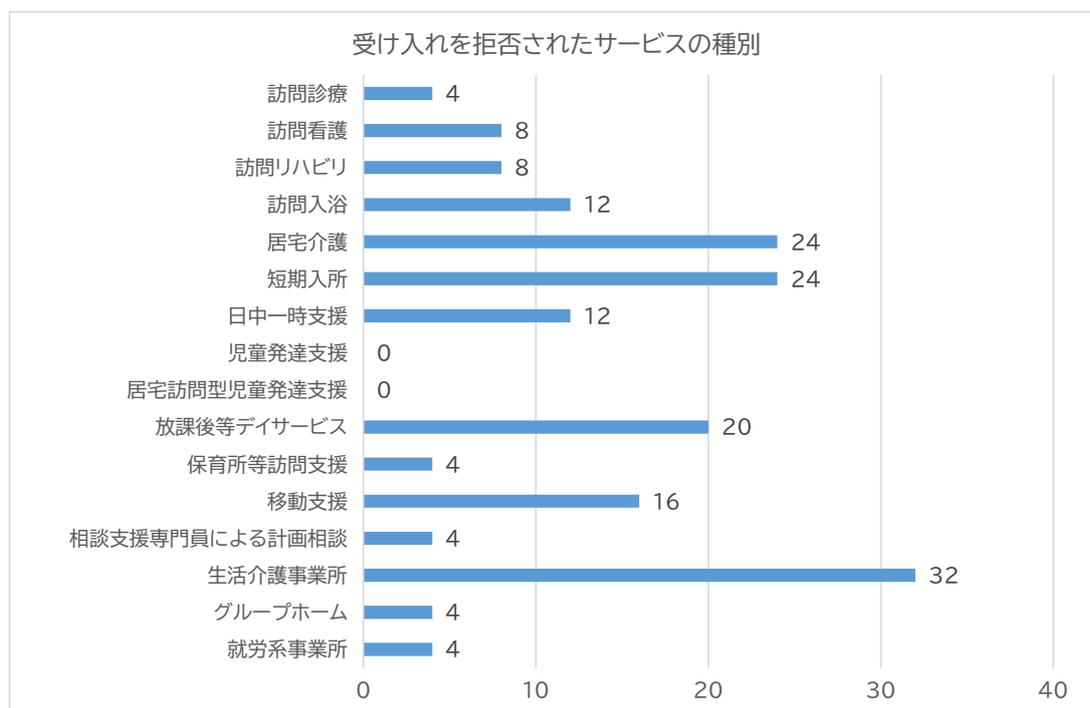
令和4年度・令和7年度調査ともに「短期入所」(R4:30.2%、R7:35.2%)が最も高く、次いで「レスパイト入院」(R4:27.9%、R7:24.2%)となっております。

そのほか、令和4年度には回答のなかった「グループホーム」(0.0%⇒13.2%)が令和7年度には増えております。

⑩サービスを受けようとした時に、受け入れを拒否されたことはありますか(R7のみ)



拒否されたサービスの種別



サービスの受け入れを拒否されたことが「ある」方は27.5%、「ない」方は68.1%となりました。受け入れを拒否された方のうち、拒否されたサービスの種別は「生活介護事業所」(32.0%)が最も高く、次いで同数で「居宅介護」「短期入所」(24.0%)となっております。